

安全上の注意

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けを行ってください。

● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

**警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**

**注意：人が傷害を負う可能性及び物の損害のみの発生が想定される内容。**

お守りいただく内容の種類を次の給表示で区分し、説明しています。

● 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

**警告**

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること  
漏電した場合、発火したり感電することがあります。
- レンジフードファン本体と排気ダクトは、可燃物との間隔を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因となります。詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください。
- 周囲温度が40℃以上になる所には取り付けないこと  
火災・故障の原因となります。
- レンジフードファンの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります。

**注意**

- レンジフードファンの取り付けは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないようにすること  
漏電した場合、発火するおそれがあります。
- 交流100V以外では使用しないこと  
火災・感電の原因となります。
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること  
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。

**注意**

- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをすることがあります。
- 作業は2人以上で行うこと  
製品は40kgの重さがあります。
- ファンや部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをすることがあります。

**注意**

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください。)
- 感電および故障の原因になります。
- 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります。

### 取り付け上のお願

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者が行う必要があります。

- 大工工事 [設置のための下地工事等]
- 配線工事 [コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等]
- 管工事 [ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等]

流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別して行ってください。

● ダクトの不燃処理について  
ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。  
● 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

● 調理器具の幅はレンジフードファンの幅以内のものをご使用ください。  
また調理器具はレンジフードファンの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

● 屋外壁面の排気口に取り付けベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は50Pa時400m<sup>2</sup>/h以上のものをご使用ください。  
● 防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。  
● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲曲したダクトは排気効果をいじしく低下させたり、騒音が大きくなるので使用しないでください。  
● 製品は調理器具の真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、製品の下端が調理器具の真上80cm以上になるようにしてください。

● レンジフードファン下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。

**注意**

- 本体の取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをすることがあります。

**お願い**

レンジフードファン取付面の木部に、取付用木ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用木ねじは45mmの長さのものと同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用木ねじが確実に木部に届くことを確認してください。また、レンジフードファン本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

### 取り付け前の調査と準備

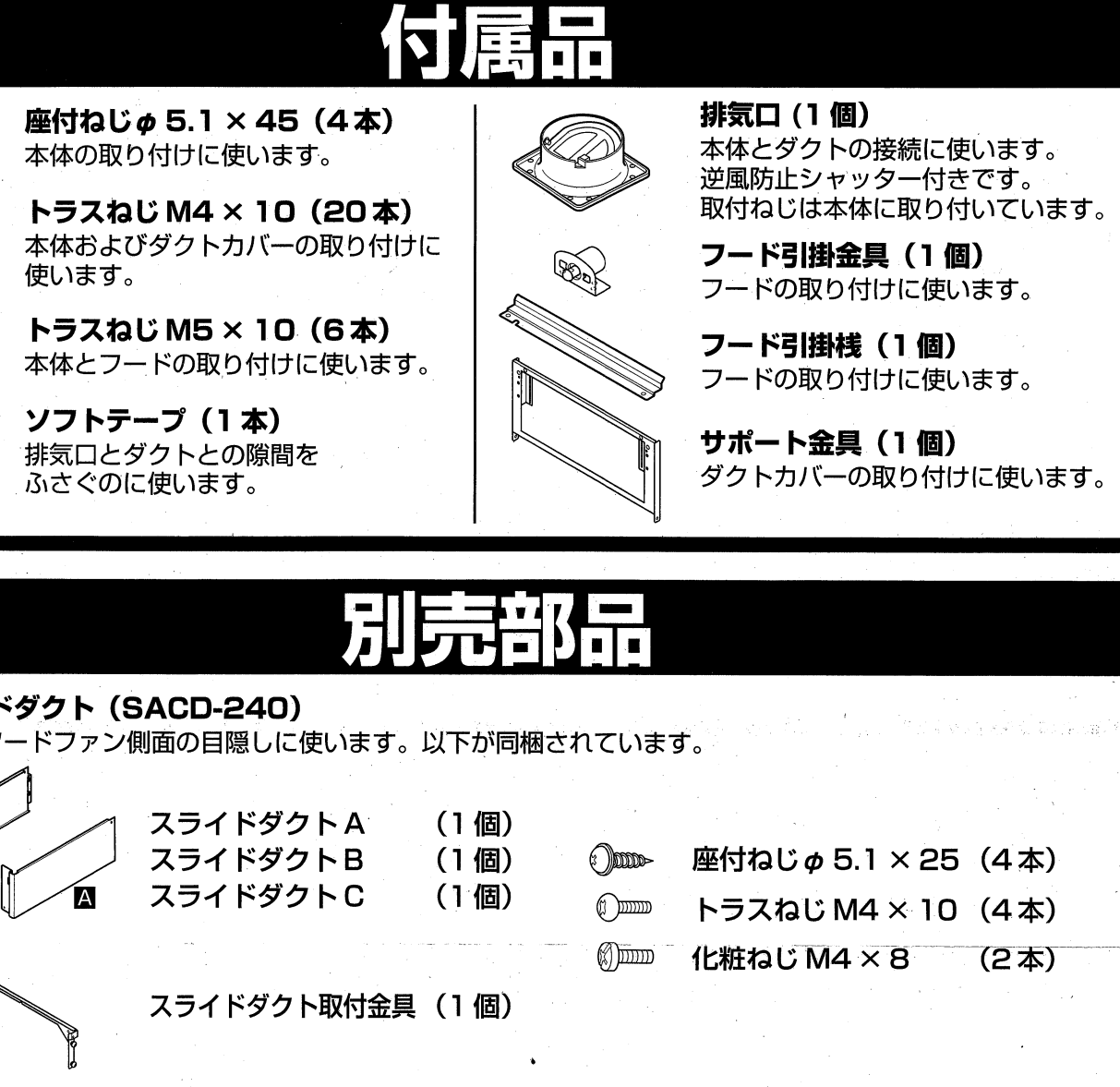
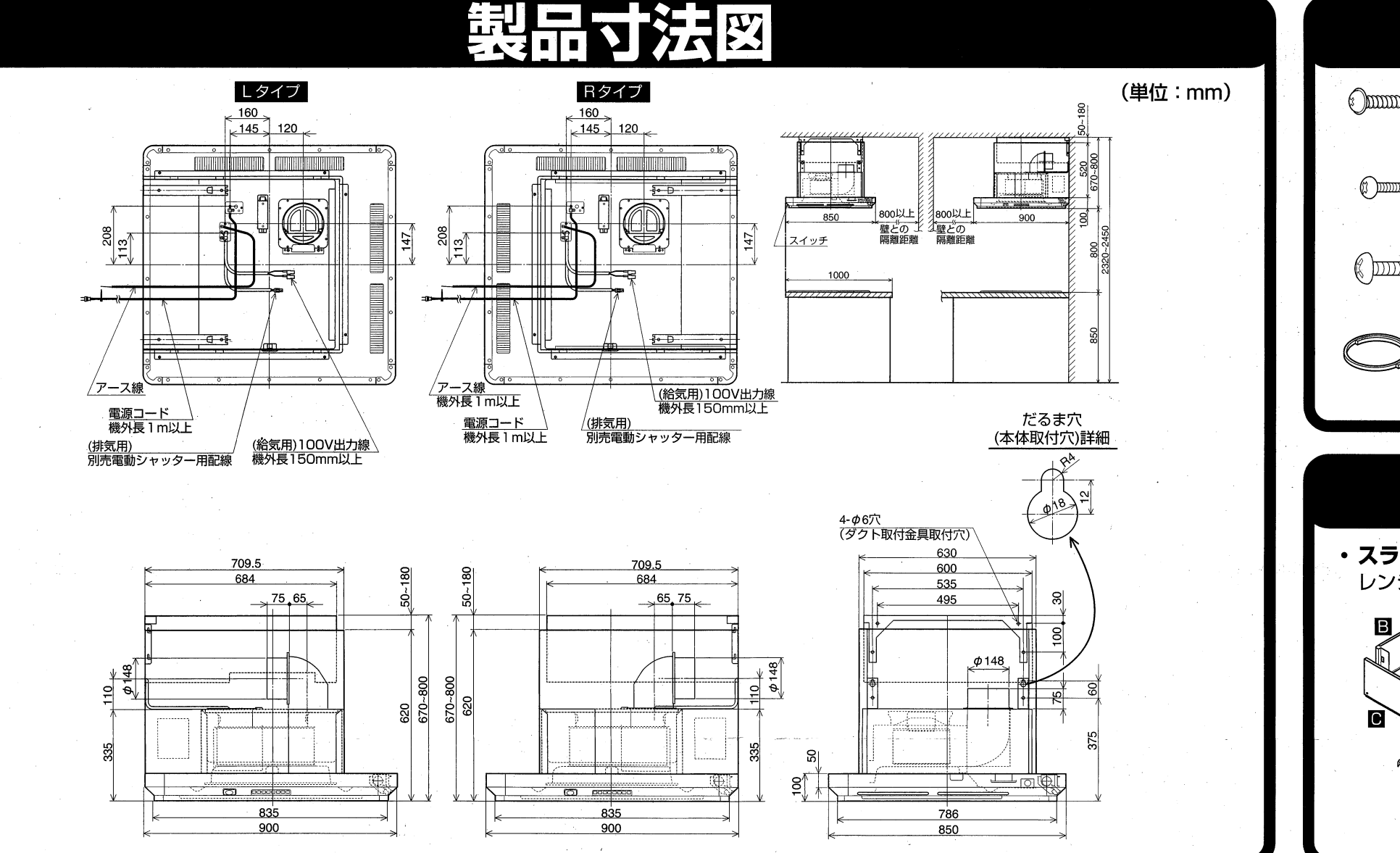
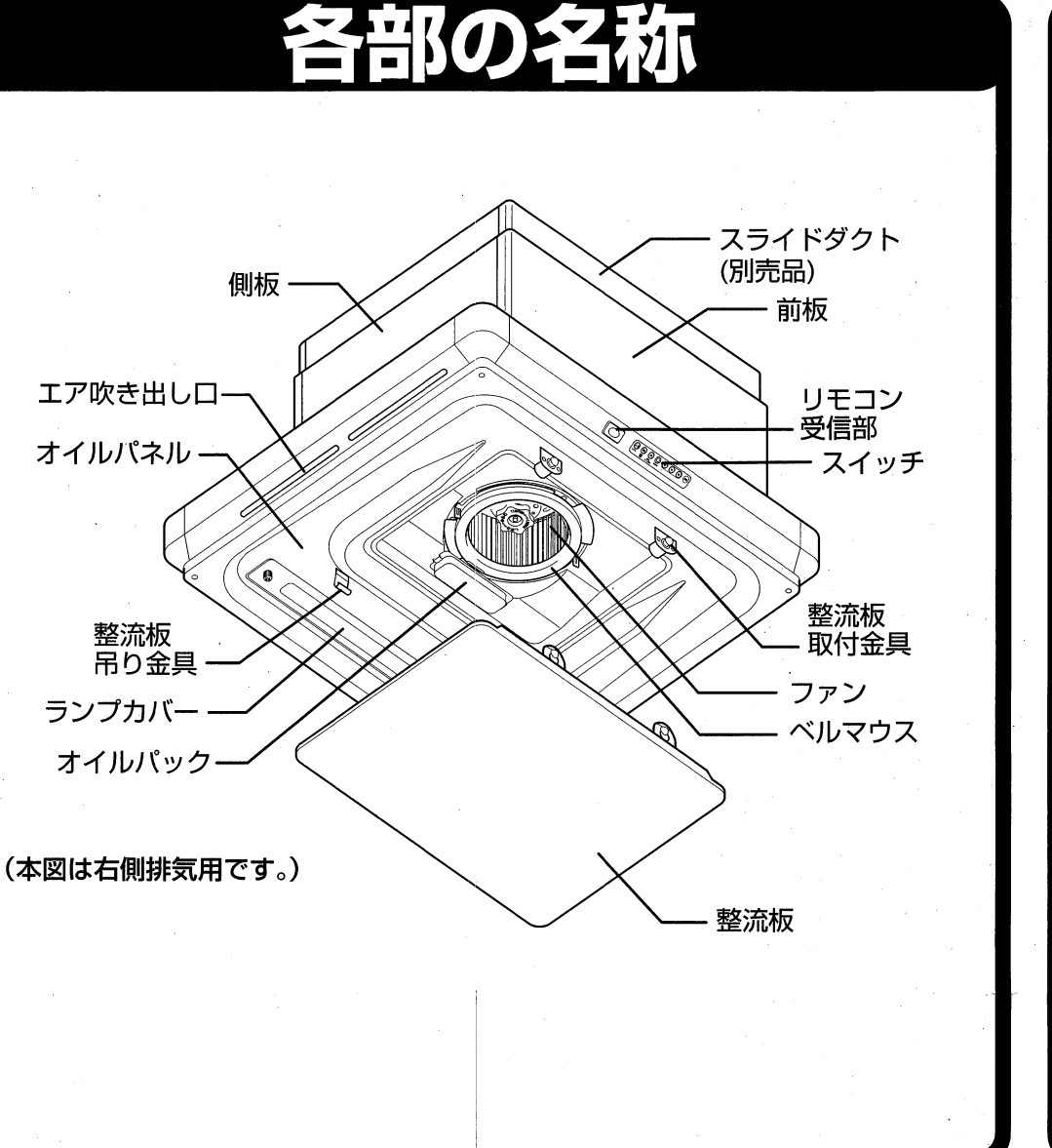
1 取付面の強度確認  
製品を支える強さが必要です。  
製品単体質量 40kg

2 別売部品の準備  
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法  
本製品の標準取付寸法は、調理器具の上面から製品の下端まで80cm以上です。

4 電源コンセント・ブレーカ  
電源コンセント・ブレーカは専用のものを設置してください。(交流・単相100V) コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。

**お願い** 必ずアース(D接地工事)をしてください。レンジフードファンが誤動作することがあります。



## 取り付けかた

### 1. 付属品の確認

● 注意  
本製品には右側排気用と左側排気用の2種類があります。取り付けの前に確認してください。  
本説明書は右側排気用の図で説明しています。左側排気用の場合は図に対し吊り金具・スライドダクト・前板の位置および向きが反転しますが、取付方法は同じです。

**注意**

- 製品取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります。
- 作業は2人以上で行うこと  
製品は40kgの重さがあります。

梱包箱から付属品を取り出し、右上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

**お願い**

- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ・破損防止のためはささないでください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

### 2. 排気方向の決定

**警告**

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けのこと  
漏電した場合、発火したり感電することがあります。
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事を行うこと  
火災などの原因となります。
- 周囲温度が40℃以上になる所には取り付けないこと  
火災・故障の原因となります。

**注意**

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと  
感電および故障の原因になります(浴室用換気扇をお使いください。)

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的有資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。  
また、コンセントの位置を確認してください。(7.電気配線 図7-1参照)

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードファンの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。(コンクリート、タイル、土壁の場合)

● 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

Rタイプ: 高さ215-235mm, 幅330mm

Lタイプ: 高さ455-475mm, 幅670mm

### 3. 排気用部品の準備

● 「1.付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

● 上方排気の場合(図3-1)

排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。本体に付いている取付ねじ2本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。  
取付方向は右図を参照してください。  
※ 指定以外のねじは取りはずさないでください。

● 後方排気の場合(図3-2)

(別売のL形ダクトを使用する場合)

排気口に付属品のソフトテープを貼り、別売のL形ダクトに取り付けます。  
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードファンを運転していないときはシャッターが閉まるように取り付けます。  
排気口は、L形ダクトに付属の取付ねじ4本でL形ダクトに取り付けてください。

**お願い**

別売のL形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開閉向きに注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。

正しい接続例

誤った接続例

### 4. 本体の取り付け

**注意**

- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをすることがあります。
- 部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをすることがあります。

1 製品寸法図を参照して付属のねじ(φ5.1×45)をねじ込みます。(図4-1)

2 だるま穴位置(左右各1ヶ所)に座付ねじ(φ5.1×45)を壁面との隙間5mmまで締め付けてください。

3 本体を取り付けます。(図4-2)

1) だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けた後、しっかりと締め付けてください。

**お願い**

上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2) だるま穴の下にある穴から木ねじ(φ5.1×45)2本でしっかりと固定します。

### 5. ダクトと排気用部品の接続

**お願い**

ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。(図5-1)

● 上方排気の場合(図5-2)

風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)を行ってください。

● 後方排気の場合(図5-3)

(別売のL形ダクトを使用する場合)

1) 本体に付いている取付ねじ2本を取りはずします。  
※ 指定以外のねじは取りはずさないでください。

2) L形ダクトを本体上部の差込口に手前から差し込み、ダクトに接続します。

3) 排気口を取付ねじ2本で固定します。(図5-4)

4) 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)を行ってください。(図5-4)

● 排気口設置面の漏れ確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードファンの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(フード天面等)が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。排気漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)を行ってください。漏れ確認の場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏れ防止処置を行ってください。(図5-5)

### 6. フードの取り付け

1 フード引掛金具およびフード引掛金具をフードに取り付けます。(図6-1)

2 トラスねじ(M4×10)各2本で奥側に引掛金具、前側に引掛金具を取り付けます。

3 フードを本体に引っ掛けます。(図6-2)

1) 図のようにフードを斜めにしてフード引掛金具を本体後部のフレイムに引っ掛けます。

2) 前側を持ち上げてフード引掛金具を本体取付穴に取り付けます。

**お願い**

- 前後とも確実に引っ掛けられたことを確認してください。
- 送風機後面の白テープはフード取付時のスリ防止用です。フードを固定したあとは、はがしてください。

4 フードを固定します。(図6-3)

1) 本体上部から前後各3本のトラスねじ(M5×10)で本体とフードを固定します。  
※ フードを手で支え、本体に押しあてながらねじを締め付けてください。ねじが完全に締まらないおそれがあります。  
※ ねじを締め付ける際には、インパクトドライバー等は使用しないでください。ねじ部分が損傷するおそれがあります。

2) コネクタを接続します。(図6-3)

1) 本体の6ピンおよび9ピンコネクタをフード後部の端子に接続します。

**お願い**

● コネクタの接続は確実に行ってください。接続が不十分な場合、レンジフードファンが動作しない、発熱による故障などの原因となります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。

● コネクタを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

正しい差し込み方

誤った差し込み方

裏面に続きます







こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けを行ってください。  
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のご注意は表面をご覧ください。

## 取り付けかた (つづき)

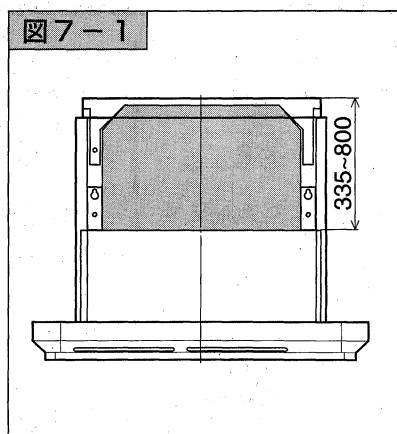
### 7. 電気配線

#### 警告

-  ● 修理技術者以外は、絶対に分解したり修理・改造しないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。
-  ● 交流100V以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります。
-  ● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事を行うこと  
誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります。
-  ● アースを確実に取り付けすること  
故障や漏電のときに感電することがあります。  
アースの取り付けは販売店にご相談ください。

- コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125V をご使用ください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、幕板のサイズに合わせて図の斜線の範囲内に設置してください。(図7-1)
- 必ずアース (D 種接地工事) をしてください。
- 電源プラグをコンセントに差し込み、ブレーカを「入」にします。

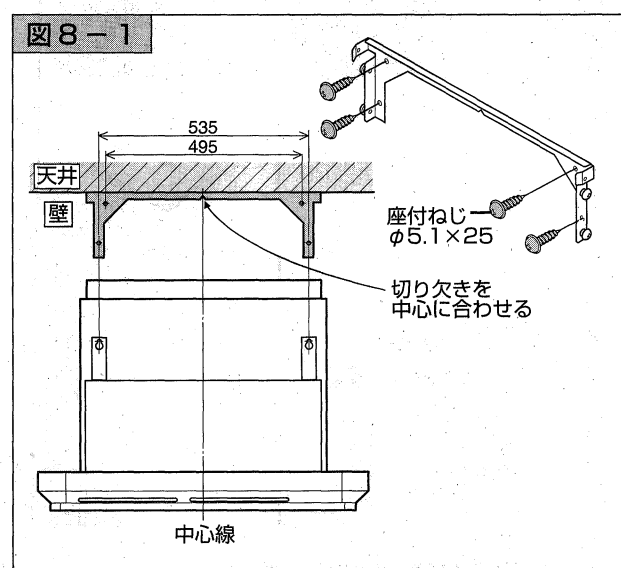
**お願い**  
電源は専用のコンセントおよびブレーカを設けてください。



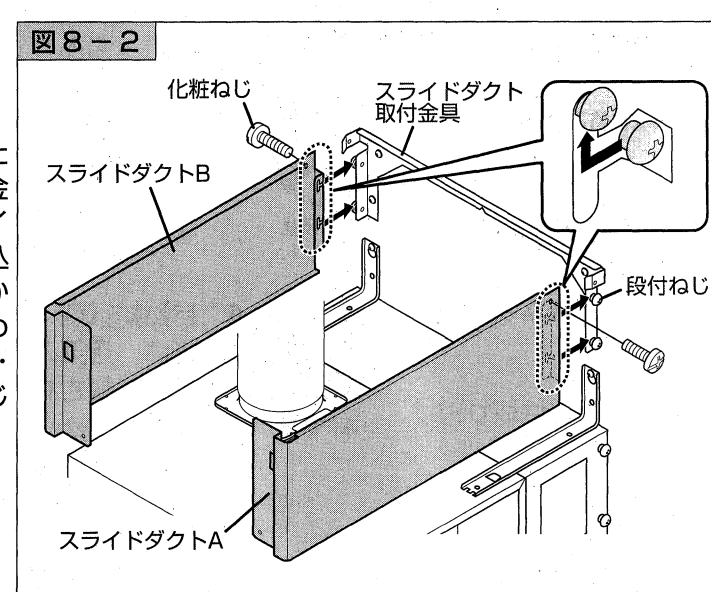
### 8. スライドダクト (別売品) の取り付け

※ ダクトカバーと天井までの間にすき間ができる場合は、別売のスライドダクトを下記手順に従って取り付けてください。

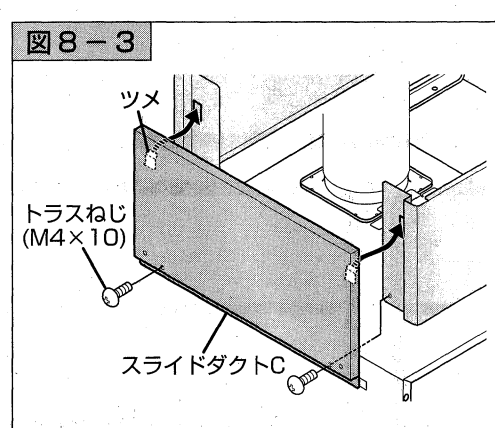
- 1 別売品スライドダクト取付金具を取り付けます。(図8-1)  
図のようにスライドダクト取付金具を天井面に付属の座付ねじ(φ5.1×25) 4本で取り付けます。  
※ 取付金具中央部分の切り欠きがフードの中心になるように取り付けてください。



- 2 スライドダクトA・Bを取り付けます。(図8-2)  
壁天井部に取り付けたスライドダクト取付金具の段付ねじにスライドダクトA・Bをはめ込み、高さ調整をしてから段付ねじ4本を締め付けます。さらに前板・後板の上部を化粧ねじで固定します。

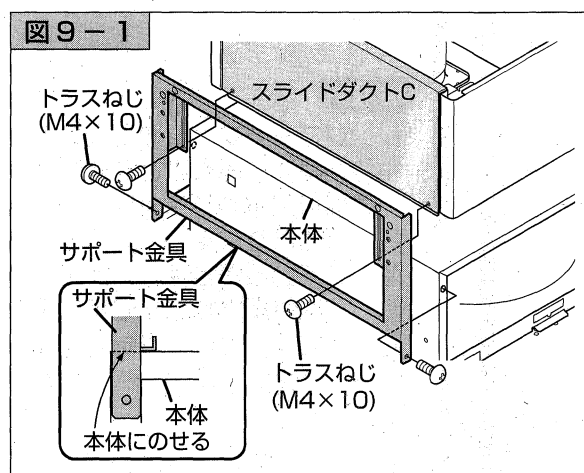


- 3 スライドダクトCを取り付けます。(図8-3)  
スライドダクトC裏面左右にある2ヶ所のツメをスライドダクトA・Bに差し込み、下部2ヶ所をトラスねじ(M4×10) 2本で固定します。

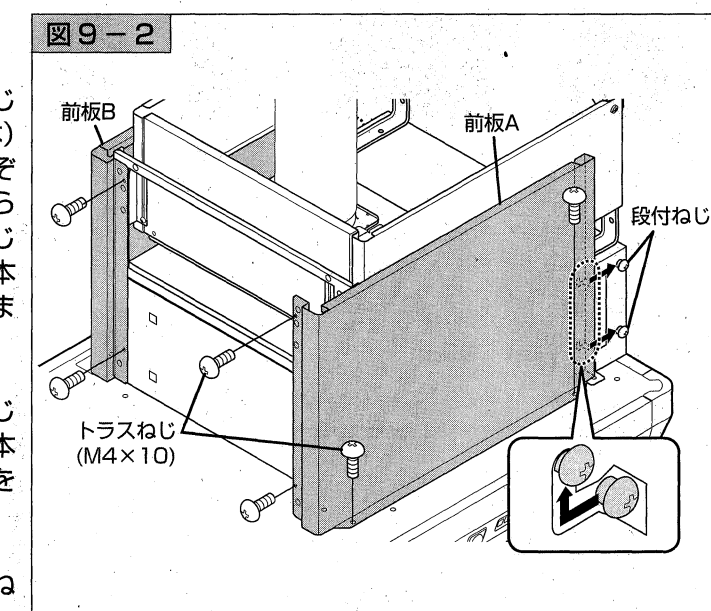


### 9. 前板・側板の取り付け

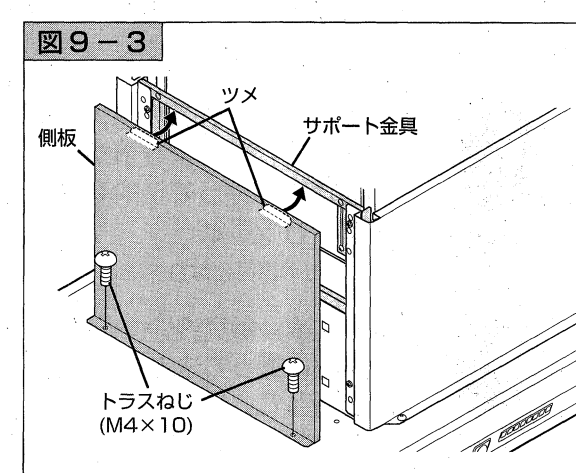
- 1 サポート金具を取り付けます。(図9-1)  
1) 付属品のサポート金具と本体をトラスねじ(M4×10) 2本で固定します。  
2) サポート金具とスライドダクトCをトラスねじ(M4×10) 2本で固定します。  
※ スライドダクトを天井に合わせてから固定してください。



- 2 前板A・Bを取り付けます。(図9-2)  
1) 本体側面の段付ねじ(前側・後側各2本)に前板A・Bをそれぞれはめ込み、上から付属のトラスねじ(M4×10) 各3本でフードに固定します。  
2) 付属のトラスねじ(M4×10) 各2本で前板A・Bの側面を固定します。  
3) 最後に1)の段付ねじを締め付けます。



- 3 側板を取り付けます。(図9-3)  
側板裏面上部のツメ2ヶ所をサポート金具に引っ掛け、トラスねじ(M4×10) 2本でフードに固定します。

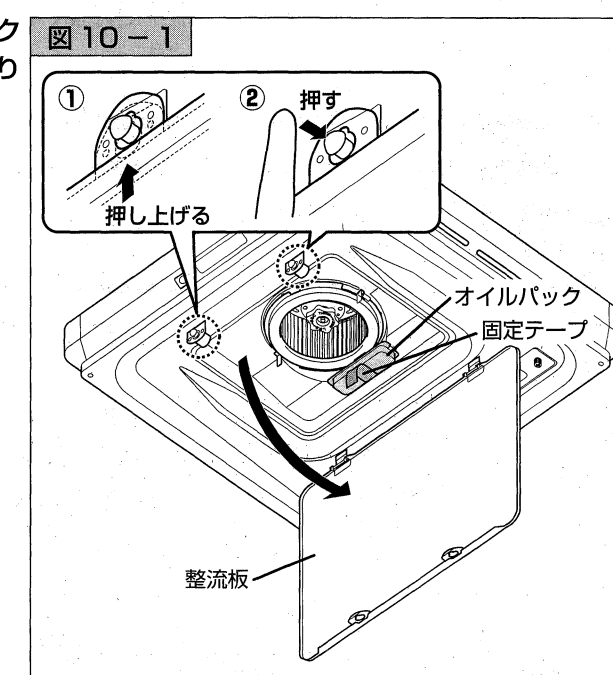


### 10. 運転準備

- 1 整流板を開き、オイルバックを固定しているテープを取り除きます。(図10-1)

#### お願い

整流板の固定は確実に行ってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因となりますので、取り付け後、再確認してください。



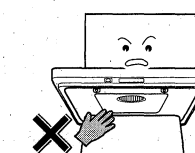
- 2 残っているエアキャップや固定テープなどをすべて取り除いてください。

### 11. 試運転

#### 注意



- 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります。



- 各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。
- スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各通風の排気が正しく行われていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは施工に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

### 12. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

【製造元】 **富士工業株式会社**

本社・営業部 〒229-0006 相模原市淵野辺2丁目1番9号  
TEL 042(768)3754 (営業部)